



# Good News for Japan とぎのこえ

## あなたへの「重要なお知らせ」 三澤 直規



年金や保険、電気器具や自動車のリコールの通知などが「重要なお知らせ」と書かれて手元に届くことがあります。そこには、わたしたちの生活や生命に直結した「情報」が書かれています。それは、「読むべき情報」であり、その「指示に従って」手続きすることが大切です。

この『とぎのこえ』は、日本における創刊以来百二十年、「重要なお知らせ」を伝え続けています。

### 重要なお知らせ 一

聖書は、神様の存在をわかりやすく伝えてくれます。神様は、わたしたちの造り主、すべてのものの造り主、愛と清さに満ちたお方です。聖書は、神様は「自身に「似た者」として人を創造された、と記しています。わたしたちは神様の大切な作品です。

### 重要なお知らせ 二

人は、生きている間に、

憎しみ、妬み、争い、非情、残酷な事件、格差や競争、不慮の出来事など、辛い現実に出合います。また、わたしたち自身が必要な過ちや挫折、疲れを経験することもあります。人は「神様の大切な作品」なのに、なぜなのでしょう。

聖書は、悲しみや痛み、苦しみについて、多くの人や事例を通して教えています。それらは、人類への重大な「インシデント(危機を引き起こす状況)情報」です。

### 重要なお知らせ 三

聖書は、その根底にあるものを「罪」(原語「的はずれ」の意)と呼び、わたしたちに、人間の思考や行動パターンが、本来あるべきところから「はずれ」ていることを示します。そして、そこから解放され、「救われる恵み」を教えているのです。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてください。」(マタイによる福音書11章28節)

### 終わりに

「救い」があります。「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネによる福音書3章16、17節)

以上、三つの「重要なお知らせ」を心に留めてください。詳しくは、聖書をよくお読みください。また、ぜひお近くの教会、救世軍にお問い合わせください。「指示に従って」手続きすることは決して難しくありません。「イエス様は、わたしの救い主です」と信じるだけです。

キリスト教のシンボルとなっている「十字架」は、神の子イエス・キリストが罪人として磔にされたことを表象しています。イエス様は死の直前に「成し遂げられた」(ヨハネによる福音書19章30節)と言われました。この言葉は「完済した」とも訳せます。「罪」を、「支払い不可能な負債」にたとえるなら、イエス様の十字架における死は、イエス様の命を引き換えにわたしたちの負債を免除する「贖い」です。そこには、「痛みと悲しみを共にする愛」があり、

神様はあなたを愛し、招いておられます。なぜなら、あなたは、神様の大切な作品であり、神様の御子イエス・キリストの命を差し出しても救う価値があるからです。

(救世軍士官(伝道者))

謹んで震災のお見舞いを申し上げます。  
一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

# 悲しみ・苦しみは喜びに変えられて

黄原亮司

## 〈信仰の体験談〉



プロフィール・(こうはら りょうじ)

中国上海市生まれ。東京交響楽団チェロ奏者。国立中国音楽院客員教授。上海音楽院卒業。東京芸術大学大学院修士課程修了。JT音楽賞を受賞し、1995年アフィニス文化財団の海外研究員としてジュリアード音楽院に留学。2002年、北京でリサイタルと国立中国音楽院マスタークラスの公開レッスンを開催。以後、北京国際音楽祭に出演、上海交響楽団と共演、ソロコンサートの開催など、国内外で積極的に演奏活動をおこなう。また、教会や学校で、演奏と共に信仰の体験談を語っている。今までの7枚のCDと、DVD、2冊の教則本などをリリース。

### 日本へ

その頃(今から三十年くらい前)、中国は改革開放政策に転じ、諸外国の資本や情報、文化などが入ってくるようになりました。経済成長が著しかった日本のテレビドラマ、映画、流行の音楽、バブル景気に湧くニュース映像などもたくさん入ってきました。

それらを見るにつ

やってきましたが、現実はいくありませんでした。働ける所が見つからなかったのです。どこへ行っても、日本語が話せない、との理由で断られました。やっと雇ってもらえなくなった所がありました。自分の名前がカタカナでふりがながつけられなかったために、最後の最後に断られました。ショックを受け、傷つきました。自分の存在価値がないと評価されたようで、とても辛かったです。それに、驚くほど物価が高く、持ってきたお金は見る間になくなっていきました。孤独と絶望の日でした。

### 育った環境

私は、中国の上海で、三人きょうだいの真ん中、長男として生まれ育ちました。父はエンジニアで中国共産党の幹部、母は仏教信者で、キリスト教とは無縁の家庭でした。

私は、六歳の時からチェロを習っていました。当時、若者は高校を卒業すると、「下放」という政策のため、必ず農村に行くことになっていました。例外として、音楽や美術などの芸術を学んだ人の中で優秀な人は都市部にどどまることができました。たとえ農村に行っても、教える立場になって、農業には従事しなくてよかったです。

### 挫折

九歳になった時、それまでの自己流ではなく本格的にチェロの勉強をしようと、ある先生の所に行きました。すると先生は、私の手を見たり、歌を歌わせたりした後、全く見込みがない、才能がない、と断じたのです。門前払いでした。大きなショックを受け、

目の前が真っ暗になりました。しかし、負けず嫌いだっただけで、絶対うまくなつて見返してやる、と闘争心が湧き上がってきました。それで、遠い親戚のバイオリンの先生に教えるを請いました。先生は、人一倍努力するならば、と教授を引き受けてくれました。以来、毎週、自転車で片道一時

### エリートコースを歩んで

間かけてその先生の所に通う生活が始まりました。暑い日は汗まみれになり、寒い日は凍えそうになりながら必死に練習しました。他の人が一時間やるなら自分は五時間やる、と努力しました。当時、一日十二時間くらい練習していました。先生も、一曲一曲、手書きで楽譜を写して、熱心に指導してくれました。

高校を卒業すると一年間、軍隊に入り、翌年の一九七八年、新入生募集が再開した上海音楽院に入りました。ここはアジアで一番古い伝統ある音楽学校ですが、文化大革命(一九六六〜一九七六年)のため、十年間、新入生募集がな

かったのです。競争率はとても高かったです。私は合格しました。同級生は、十代から四十代まで開きがありました。が、みな、一生懸命学び、技術を磨きました。全寮制だったので、夜は布団の中で懐中電灯の明かりで勉強し、夜が明けるとそれぞれの楽器を必死に練習しました。

上海音楽院を卒業すると、上海交響楽団に入りました。二年後、広州交響楽団の団員となり、首席チェロ奏者となりました。当時、楽団員はエリート階級で、収入は一般の人の三〜四倍。国家の行事があると、演奏のため専用の飛行機や列車に乗って移動し、政府の要人たちと食事を共に

### 厳しい現実

夢と希望に溢れ、それまでに得たお金をもって日本に

成功を夢見て国外に出ていました。私の姉もアメリカに留学し、弟はフランスに行きました。両親は、子どもたちの意志を尊重し、私の日本行きも許してくれました。

しばらくして、夜のガソリンスタンドのアルバイトができるようになりました。洗車なので言葉はいりません。夜十二時から翌朝九時まで、三分に一台の割合でひたすら洗車をしました。その後、専門学校で勉強し、午後三時から夜八時まで、父の部下の親戚がやっている中華レストランでアルバイトをしました。十二時からのガソリンスタンドの時間まで、山手線の電車の中で眠るという毎日でした。

ある日、アルバイト先のガソリンスタンドから駅に向かう途中に、東京交響楽団の練習場があるのに気づきました。時々、楽器を抱えて建物に入っていく人に出会います。か

教会へ

つてチェロ奏者として活躍していたことがある自分の現在の姿が悲しく、遠回りして駅に向かうようになりました。

アルバイト先の中華レストランのオーナーは華僑で、クリスチャンでした。ある日、そのオーナーから、教会に誘われました。

初めて入るキリスト教会。日本語で話される礼拝の身はほとんどわかりませんでした。でも、小さい子どもから年配の人まで、集った人が声を合わせて歌う賛美歌に圧倒されました。それは、決して音楽的ではありませんでした。子どもの甲高い声、年配の人のしゃがれた声が混じり、高い音が出ない人もいました。けれど、私は感動しました。信徒一人ひとりが心から歌う歌は、力をもって私に迫ってきたのです。

礼拝が終わると、信徒の方たちが話しかけ、温かく迎えてくれました。日本に来て、疎外感を深めていただけに、これは涙が出るほどうれしいものでした。

その後、熱心に求道するようになり、初めて教会に行っ



てから三カ月も経たないうちに、神様を心から信じるようになりまし。聖書に書かれていることがよくわかったわけではありません。でも、神様は私を価値ある者として愛し、迎え入れてくださることを知りました。私の罪を赦すために、独り子のイエス様を私の身代わりに十字架に架けてくださるほど大きな神様の愛——本当にありがたく、心から感謝して受け入れました。それから三カ月後、イエス・キリストが救い主であると信じることを告白し、洗礼を受けました。

再びチェロを手に

その間、私は教会でチェロを弾くようになっていました。礼拝の中で賛美歌を歌う時の伴奏をしたり、演奏をしたり……。そして、しよと思っていた経済の勉強ではなく、もう一度チェロに向き合いたいと思うようになっていきま

した。以前のように、良い暮らしや名誉を求めためではなく、神様に賛美を献げるとい目的のために。

そんなある日、教会員が経営しているレストランのクリスマスパークティで、チェロを弾く機会がありました。クリスマスカールなので、テクニクのいらぬ易しいメロディーばかりでしたが、そこに

いた方々から「感動した」との言葉をいただきました。

また、その中の一人は、自分の知り合いの芸大の先生にチェロを聴いてもらうように、と連絡先を教えてくださいました。半信半疑で電話を入ると、弾いてみせてほしい、との返事。すぐその先生のところに行き、演奏しました。すると先生は、芸大の大学院に入れるレベルだと励ましてくださったのです。

年が明けて、二月、私は東京芸術大学大学院の試験を受け、合格しました。

新しい展開

芸大大学院では、授業料が免除になり、そのうえ奨学金がもらえたので、アルバイトをする必要がなくなりました。心おきなく練習に打ち込めるようになり、日本に来てからの辛い日々がやっと報われた思いがしました。

大学院二年の時、東京交響楽団のチェロパートに欠員ができ、入団試験を受ける機会に恵まれました。一人枠に、六十人もの応募者が来る倍率の高さでしたが、合格することができました。大学院での学びは、楽団員としての活動と並行して続け、無事、修了することができました。

日本に帰化したのは、大学院を修了してからです。そし



て一九九二年に結婚しました。妻は日本人で、私の友人が開いたサロンコンサートで知り合いました。

妻は、キリスト教に興味をもっていました。クリスチャンではありませんでした。聖書を読破しなければ、また、人を恨んだりしないようにならなければクリスチャンにならない、と思っていたのです。でも、私が短気な性格だったり、聖書の言葉の意味を聞かれても答えられなかったりするのに接し、ありのまま、ただイエス様の救い信じればいいのだ、ということを知り、喜んでクリスチャンになりました。

その後、息子が与えられ、アフィニス文化財団が募集した留学生として、アメリカのジュリアード音楽院で学ぶ機会に恵まれました。家族で渡米し、一年五カ月後、日本に帰ってきました。

大きな喜び

その後は、東京交響楽団に属しながら、招かれた教会や学校などでチェロを演奏し、神様の素晴らしさを語らせていただけてきました。日本だけでなく、台湾、香港にも行きました。

昨年十一月には、中国の杭州に行きました。八千人もの人が礼拝に集まるキリスト教会で、演奏と話をさせていただいたのですが、これは忘れられないものとなりました。その集会には私の両親と姉も来ていました。集会の中で、私は、日本に来てからの自分の歩みを中国語で話し(二十数年ぶりの中国語でした、最後に「輝く日を仰ぐとき」という、神様の大きな力と愛を称えた賛美歌を、心を込めて演奏しました。その後、牧師が「神様を信じたい人は、手を挙げてください」と呼びかけました。すると、たくさんの方が手を挙げた中に私の父がいたのです。涙を流しながら、高々と手を挙げていました。私は、感動し、神様に心から感謝しました。

と知っているからです」(ローマ人への手紙5章3〜4節 新改訳聖書)

とありますが、日本に来てからの孤独で苦しい時を経て現在の幸いな状態に導かれたことを思う時、この御言葉は本当だ、と思っています。また、「いつも主にあつて喜びなさい」(ペリピ人への手紙4章4節 新改訳聖書)

という御言葉があります。神様が必ず、ご自分に従う者の苦しみを楽しみに変え、悲しみを喜びに変えてくださることを知るなら、「いつも」、どんな時も喜ぶことができます。私にはチェロしかありません。これからも、神様を信じて歩む幸いを、チェロの演奏を通して、一人でも多くの方に伝えていきたい、と願っています。

そしてこれから

聖書の言葉に、「……患難さえも喜んで耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
□ キリスト教についてもっと知りたいです。
□ 「ときのことえ」の購読を申し込みます。

ご住所
ご氏名
キトリ



(日本バプテスト連盟・多摩ニュータウン憩いの家教会所属)

裏、この部分を封書か葉書に貼り、面下の救世軍にお送りください。

# 救世軍とは

The Salvation Army

国際的な組織のキリスト教会(プロテスタント)で、世界百二十六の国と地域で働きを進めています。



一八六五年、イギリスの牧師ウイリアム・ブースが、東ロンドンの貧しい人々、虐げられている人々に神の愛を届けようと伝道を始めました。やがて人々の一番必要としているものを提供しないで神の愛を伝えることはできないと、物心両面からの救いを目指すようになり、医療や社会福祉の働きが起こされてきました。そして、その時々の人々のニーズに迅速にこたえるため、軍隊流の組織を取り入れ、アルコール依存症者の回復支援をおこなっている団体として、信徒も

アルコール抜ききのライフスタイルを採りました。

日本での働きは一八九五(明治28)年に始まりました。

廃娼運動や失業者対策を推し進め、結核療養所や婦人保護施設、児童養護施設の設立などに力を尽くしました。また、キリスト教、聖書の神をわかりやすく伝え、多くの人々が真の神を信じるようになりました。

現在、伝道の拠点である四十五の小隊(教会にあたる)と二十二の分隊(伝道所にあたる)、二十の社会福祉施設、二つの病院(ホスピス併設)を通して働きを進めています。

年間を通して、街頭生活者支援や災害被災者支援、様々な社会奉仕活動をおこなっています。また、これら社会鍋募金などを通して献げられた寄付金を資金として

年間を通して、街頭生活者支援や災害被災者支援、様々な社会奉仕活動をおこなっています。また、これら社会鍋募金などを通して献げられた寄付金を資金として

年間を通して、街頭生活者支援や災害被災者支援、様々な社会奉仕活動をおこなっています。また、これら社会鍋募金などを通して献げられた寄付金を資金として



熱帯出血性エボラウイルス感染症地域での支援(リベリア)

国際組織の救世軍は、世界の各地において、様々な災害被災者への支援と共に、内戦などからの復興支援、開発途上国での職業訓練、教育の充実などによる自立支援、HIV/エイズ対策プログラム、トラフィック

国際組織の救世軍は、世界の各地において、様々な災害被災者への支援と共に、内戦などからの復興支援、開発途上国での職業訓練、教育の充実などによる自立支援、HIV/エイズ対策プログラム、トラフィック

国際組織の救世軍は、世界の各地において、様々な災害被災者への支援と共に、内戦などからの復興支援、開発途上国での職業訓練、教育の充実などによる自立支援、HIV/エイズ対策プログラム、トラフィック



大雨洪水の被災者への生活支援(バングラデシュ)

日本の救世軍は、南アメリカのエクアドル・ペルー・ボリビア・チリと、ヨーロッパのポルトガル、アフリカのルワンダ・ブルンジ、そしてバングラデシュとオーストラリア(南部)とパナマになっていきます。これらの国々でおこなわれている、人々のニーズに応える具体的なプロジェクトのために支援をおこなうこともあります。

国や地域の状況に応じて必要とされる働きは異なりますが、救世軍のすべての働きは、キリストの愛に基づき、人種や思想を超えて人々に仕えるためのものなのです。

国や地域の状況に応じて必要とされる働きは異なりますが、救世軍のすべての働きは、キリストの愛に基づき、人種や思想を超えて人々に仕えるためのものなのです。

## 東日本大震災復興支援活動を継続しています

東日本大震災から四年、救世軍は、震災直後から現在まで救援及び復興支援活動を続けています。

これまで、国内外からの多大な支援によって、岩手県大船渡市「おおふなと夢商店街」、宮城県南三陸町「南三陸さんさん商店街」、宮城県女川町「きぼうのかね商店街」など仮設商店街設置の支援や、女川町漁協に作業船三十隻贈呈などの支援ほか、保育園、学校、作業所などへの支援を、良い信頼関係を築きつつおこなってきました。

昨年四月から仙台に災害対策室分室を設置。大規模支援を展開した地域を中心に、変化するニーズを聞き取りながら、支援を継続しています。

昨年四月から仙台に災害対策室分室を設置。大規模支援を展開した地域を中心に、変化するニーズを聞き取りながら、支援を継続しています。

## 3月～4月 救世軍では 克己週間 と呼ぶ 募金活動をおこないます

これは、今から約130年前、救世軍の創立者ウイリアム・ブースが信徒に「それぞれ1週間だけ何かを節約して(克己して)、そのお金を献げよう」と呼びかけたことから、始まりました。目的はヨーロッパ各地に働きを広げるためでした。この精神は、今日まで引き継がれ、毎年、世界の様々な国でおこなわれている、人々のニーズを満たすための働きや災害被災者の支援活動を進めるため、募金がおこなわれています。

この時期、信徒は率先して献金するとともに、救世軍の制服を着た伝道者や信徒が戸別訪問をし、趣旨を説明して献金を募ります。皆様のご協力をお願いいたします。

この趣旨に賛同してくださる方は、次の方法でも献金が可能です。

- 郵便振替
 

00180-5-4400  
加入者名 救世軍本営
  - 現金書留
 

〒101-0051  
東京都千代田区神田神保町2-17  
救世軍本営
  - インターネット
 

救世軍ホームページ  
<http://www.salvationarmy.or.jp>
- \*いずれの場合も、通信欄に「克己週間募金」とお書きください。
- お問い合わせは、  
救世軍本営 伝道事業部まで  
TEL 03-3237-0881



「きぼうのかね商店街」での支援(昨年5月) ↓

↑大船渡市の仮設住宅を訪問(昨年12月)

発行日 毎月一日・十五日

発行部 救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。救世軍にこの問題でお悩みの方は、右取扱い部にご相談ください。

発行日及び定価

定価 毎月 毎月一日・十五日

一日号 一部五〇円(〒六〇円)

十五日号 一部六〇円(〒六〇円)

クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(〒七〇円)

一年分 二七〇円(送料七五〇円)

振替 〇〇一八〇一五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 勝地 次郎

編集人 齋藤 恵子

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七

電話 東京(03)三三三七〇八八一

発行所 救世軍本営

印刷所 図書印刷株式会社

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)